

【構想の概要】

グローバル人材育成を担う**グローバル教育センター(SGE)**を設立し、「3言語(日本語、専攻語(英語学科は第2外国語)、英語)×3視座(日本発信力、地域多様性理解力、地球課題発見解決力)」を学生に習得させるプログラムを開発、外国語学部から開始し、段階的に全学へ波及させていく。

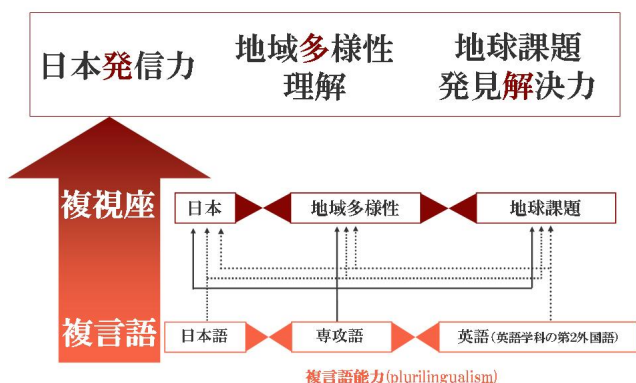
【構想の目的・育成するグローバル人材像】

高度な外国語能力およびコミュニケーション能力を有し、幅広い人間性と高い倫理性に裏打ちされたグローバル・コンピテンシー(グローバル対応能力)を発揮し、多言語・多文化の多様な世界において、他者のために力を尽くすことのできる人材を養成する。

1. グローバル人材として求められる能力を育成

グローバル人材に求められる「地球課題発見解決力」は、日本語や英語によるだけではなく、専攻語や専攻語の通用する地域の視点から世界を展望することによって形成される

→3言語×3視座に基づくプログラムにより、高度な外国語能力に加え、政治・経済・宗教・文化背景等に関する深い理解に裏打ちされたコミュニケーション能力を身につけることを狙いとす



◆3言語＝複言語能力の育成

複言語主義の立場から、自国語としての日本語、世界の地域的・多様性の理解を促す専攻語(英語学科の場合は第2外国語)、国際共通語としての英語の3言語運用能力を目指す。

◆3視座＝複視座能力の育成

世界との比較において、日本と日本人を相対化し、世界に向けて日本を発信する力を養う。専攻語の学習を通じて各地域の固有性を認識し、さらに世界全体が関わる今日の問題を発見・解決する視点を醸成する。

2. 大学のグローバル化戦略と教育課程の国際性を向上

◆教育課程の国際通用性の向上のための取組

- ・GPA制度、科目ナンバリングの徹底
- ・CLIL(内容言語統合学習)の推進
- ・ダブル・メジャー/メジャー・マイナー 制度の整備
- ・CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)による言語能力評価の導入
- ・e-ポートフォリオを活用した課程管理

◆戦略的な国内外への教育情報の発信

- ・ウェブサイトのグローバル化: 日・英・専攻語によるコンテンツの整備
- ・IR(Institutional Research) 活動の強化
- ・国際シンポジウム開催など情報発信の機会の創出

◆事務体制のグローバル化

- ・海外国際機関や高等教育機関等への職員派遣研修の実施
- ・英語・他言語学習機会の提供
- ・学内文書の英語化
- ・全事務部門のグローバル対応機能の強化

4. 日本人学生の留学を促進するための環境整備

◆動機付けや留学を促進するための取組

- ・38カ国160校の交換留学協定校の拡大と交換留学の促進
- ・入学時から留学への意欲を高めるプログラムを整備・開発する
 - 留学経験者や留学先国出身の学生を授業の補助者として起用
 - 留学に係るフェアや各種ガイダンスを積極的に開催
 - 海外短期研修、インターンシップ、サービスマーケティング・プログラムやフィールドワーク等のプログラムの開発

◆留学中から帰国後にわたるサポート体制

- ・留学中: 即応性を確保しながらも学生が自ら体験を深める過程をサポート
- ・帰国後: 体験を振り返る機会を与えつつ、チューターに起用するなど留学中に培った能力を活かす機会を提供
- ・e-ポートフォリオ・システムを十全に活用し、留学経験を共有

3. 複言語能力向上を目指す教育体制

◆入試における中等教育段階までの外国語能力の適切な評価

- ・財団法人日本英語検定協会との共同開発によるTEAP(アカデミック英語能力判定試験)の開発・実施・普及の推進
- ・複言語入試などの新たな入試制度導入に向けた検討

◆効果的な語学教育及び教育体制

- ・複言語教育を充実し、レベル別少人数教育をさらに推進
- ・CLILの強化、チューター制度、学習アドバイザー制度、e-ラーニング・システムの充実とメタ言語能力の育成

5. 教員のグローバル教育力の向上

◆教育体制のグローバル化

- ・グローバル関係科目を担当する教員とPDをSGEに配置
- ・外国人教員、長期の在外経験を有する日本人教員比率の向上
- ・海外招聘客員教員制度の活用、短期招聘による集中講義の実施

◆グローバル教育力向上のための取組

- ・教員の短期海外派遣による研修
- ・海外からグローバル教育を専門とする講師を積極的に招聘
- ・グローバル教育技能の向上を企図するFDプログラムの一環として、先進的な取組みを実施している高等教育機関等に教員を派遣

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

複言語能力については、3言語を複言語主義に基づいて修得すること、すなわち、日本語、専攻語(英語学科は第2外国語)、英語について、それぞれ必要に応じた十分な能力を獲得することが学生に求められる。具体的には英語学科は、英語についてCEFR C1、第2外国語についてB1、初習言語学科(ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語)は、英語、専攻語ともB2の達成を標準とし、望ましくはそれらの1段階上にいたることを奨励する。日本語について、すべての学生がC2を超えて知識人の母語能力として高度な水準に達すべきであるのは言うまでもない。

複視座能力については、従来の外国語学部専門分野制度を整備し、言語を第1主専攻とするのに対して、第2主専攻もしくは副専攻を設定し、ダブル・メジャー、メジャー・マイナー制度によって、語学を超えた専門性を獲得し、これを学位とともに大学として認定する。加えて、SGEの開講するグローバル系科目群についても履修を奨励し、その修了を大学として認定する。

本構想において実現する達成目標

全学		2011	2012	2013	2014	2015	2016	
外国語カスタンダードを満たす学生数				206人	215人	221人	227人	
うち海外留学未経験者数 (A)				55人	58人	59人	60人	
海外留学経験者数 (B)		248人	240人	265人	286人	300人	314人	
卒業[予定]者数 (C)		605人	553人	582人	598人	598人	598人	
比率 ((A+B)/C)				55.0%	57.5%	60.0%	62.5%	
英語学科	卒業時の外国語カスタンダード	CEFR C1		138人(41)	142人(43)	146人(44)	150人(45)	
	海外留学経験者数	94人	89人	93人	98人	103人	108人	
	3カ月未満	20人	19人	20人	21人	22人	23人	
		3カ月～1年	74人	69人	72人	76人	80人	84人
		1年超	0人	1人	1人	1人	1人	1人
	卒業[予定]者数	242人	214人	214人	214人	214人	214人	
初習言語学科	卒業時の外国語カスタンダード	CEFR C1		68人(14)	73人(15)	75人(15)	77人(15)	
	海外留学経験者数	154人	151人	172人	188人	197人	206人	
	3カ月未満	39人	38人	43人	47人	49人	51人	
		3カ月～1年	113人	111人	127人	139人	146人	153人
		1年超	2人	2人	2人	2人	2人	2人
	卒業[予定]者数	363人	339人	368人	384人	384人	384人	
第2外国語	卒業時の外国語カスタンダード	B2(英語学科) / C1(他学科)		108人(22)	114人(23)	117人(23)	120人(24)	
	海外留学経験者数	248人	240人	265人	286人	300人	314人	
	3カ月未満	59人	57人	63人	68人	71人	74人	
		3カ月～1年	187人	180人	199人	215人	226人	237人
		1年超	2人	3人	3人	3人	3人	3人
	卒業[予定]者数	605人	553人	582人	598人	598人	598人	

※1)学部数が多く、本表が1頁以内に収まらない場合は、「海外留学経験者数」の期間別内訳を省略してもかまわない。

※2)「外国語カスタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語カスタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※3)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。